はじめに　3

序　章　満州開拓民二七万人の運命　19

1　過去を呼び起こす二つの〝和解〟　20
（1）ドミニカ移民訴訟／（2）中国残留孤児訴訟

2　満蒙開拓団の送出と約八万人の殉難　28

3　事件別開拓団死亡者数一覧　34

第1章　方正へ、哈爾濱へ——開拓団の避難　37

1　方正へ、ハルビンへ　38

2　避難経路と避難民の難民化　44
（1）避難経路・避難状況／（2）避難民の難民化

3　方正の避難民　51

第2章 方正にたどりついた開拓団 57

1 方正に集結した開拓団 58
2 公心集読書村開拓団（長野県） 60
（1）満州読書村と天白台中腹の慰霊碑／（2）読書村開拓団の避難行
3 大八浪泰阜村開拓団（長野県） 68
（1）泰阜村開拓団の避難行／（2）泰阜村平島田に眠る六〇〇柱
4 柞木台開拓団と日高見開拓団 74
5 小八浪中川村開拓団（埼玉県） 77
（1）断末魔の中川村開拓団／（2）秩父の谷奥に建つ二つの慰霊碑
6 避難民収容所での生活 88
（1）収容所となった伊漢通開拓団は……／（2）収容所での難民生活

第3章 土塊の中の白骨と中国唯一の「日本人公墓」

1 野ざらしの遺骨の発見 100
2 「墓碑は人民政府の手で」 102
3 昭和二〇年冬と昭和二一年春 110
4 方正友好交流の会 114

5 日本からの墓参団 118
6 「中国養父母公墓」と「中国養父母に感謝の碑」 125
(1)中国養父母公墓／(2)中国養父母に感謝の碑

第4章 麻山事件と「麻山地区日本人公墓」 135
1 哈達河開拓団 136
2 参議院在外同胞引揚特別委員会への提訴 139
3 逃避行の果てに 144
4 麻山谷の湿地帯に累々たる屍が 148
5 長野県下伊那郡阿智村・長岳寺の「哈達河地蔵」 153
6 方正に「麻山地区日本人公墓」建立 156
7 もうひとつの遺骨収納と園林環境整備など 160

第5章 佐渡開拓団跡事件と新潟県送出開拓団 167
1 佐渡開拓団と佐渡開拓団跡 168

2 佐渡開拓団跡での惨事 172
3 新潟・清和開拓団と宝清事件、佐渡開拓団跡事件 178
(1)第七次清和開拓団／(2)清和開拓団の避難開始／(3)逃避行と宝清事件／(4)佐渡開拓団跡事件前後

第6章 長野県送出開拓団の受難 199
1 斬り込み、その後自決した開拓団（高社郷開拓団） 200
2 屍の下で（更級郷、埴科郷開拓団） 206
(1)城山山頂の白亜の慰霊塔／(2)慰霊碑の移転／(3)生き残った子らが見た光景
3 渡満とはなんだったのか（黒台信濃村、長野村、信濃報国農場） 216
4 丘の上から火煙を望む（阿智郷開拓団） 224
5 七人の遺髪を胸に（南信濃郷開拓団） 228

第7章 碑が、土塊が、語りかける 233
1 東京多摩市聖蹟桜ヶ丘の拓魂碑 234
2 長野市善光寺雲上殿の拓魂碑 241

3 新潟県護国神社の殉難者慰霊碑 246
4 東京・浅草寺の「まんしゅう地蔵」 252
5 東京・西多摩霊園の「中国帰国者之墓」 254
6 道北に新潟県送出開拓団の慰霊碑が 258
(1)第七次清和開拓団慰霊碑／(2)原始林と荒地に挑む／(3)酪農のモデルケースに

第8章 満州からの引揚げ、六〇年前と六〇年後 271
1 引揚港・葫蘆島 272
(1)満州からの引揚げと葫蘆島と／(2)葫蘆島まで／(3)葫蘆島では、そして引揚船へ
2 引揚六〇周年記念の集い 283
(1)在満日本人居留民送還六〇周年記念式典（中国・葫蘆島市）／(2)引揚六〇周年記念の集い（東京・九段会館）

第9章 引揚港、佐世保・博多・舞鶴で 297
1 引揚港・佐世保 298
(1)佐世保港浦頭埠頭／(2)浦頭引揚記念平和公園・資料館

2 引揚港・博多 305
(1)「那の津」博多港／(2)汚辱の果てに――女性たちの哀れ／(3)二日市保養所／(4)京城大医学部チームと九大医学部チーム
3 引揚港・舞鶴 320
(1)「岸壁の母」／(2)平引揚桟橋／(3)引揚げを語り伝える舞鶴引揚記念館／(4)往時を偲ぶ平和記念公園

終章 いま後世に語り継ぐこと 335
「聞き取り」と「語りかけ」／「そのことはもう語りたくない……」／「もう帰るの……」「泊まっていけや……」／「慰霊には出向かない……」、だが「わが子の供養のために……」／「今だから……」／「おばあちゃんの口から聞きたかった……」／手記・碑文から満州開拓を語り継ぐ／オブラートに包まれたことば／風化させてはならないことがある

おわりに 353

引用・参考文献 359